

出版 一般社団法人くすりの適正使用協議会・日本製薬工業協会

なぜ、高齢者ではくすりの数が増えるの？

高齢になると、複数の病気を持つ人が増えてきます。病気の数が増え、受診する医療機関が複数になることも、くすりが増える原因となります。75歳以上の高齢者の4割は5種類以上のくすりを使っています。高齢者では、使っているくすりが6種類以上になると、副作用を起こす人が増えるというデータもあります。

なぜ、高齢者では副作用が起こりやすいの？

高齢になると、肝臓や腎臓の働きが弱くなり、くすりを分解したり、体の外に排泄したりするのに時間がかかるようになります。また、くすりの数が増えると、くすり同士が相互に影響し合うこともあります。そのため、くすりが効きすぎてしまったり、効かなかったり、副作用が出やすくなったりすることがあります。

「ポリファーマシー」って聞いたことがありますか？

多くのくすりを服用しているために、副作用を起こしたり、きちんとくすりが飲めなくなったりしている状態をいいます。単に服用するくすりの数が多いいことではありません。

医師、薬剤師に相談するときは具体的にどうすればいいの？

使っているくすりは、必ず全部伝えましょう。くすり以外で毎日飲んでいる健康食品やサプリメントがある場合は、その情報も伝えましょう。いつ頃から、どのような症状が出てきたのか、気になる症状についてメモしておきましょう。

日頃から注意しておくことは？

日頃から、かかりつけの医師や薬剤師を持って、処方されているくすりの情報を把握してもらっておくのが安心です。自分に処方されているくすり分かるように、お薬手帳を持ちましょう。お薬手帳は1冊にまとめておきましょう。

【記事に関するお問い合わせ】
鳥取県福祉保健部 医療・保険課
鳥取市東町一丁目220
電話 0857-26-7975

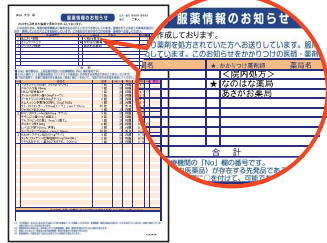
1 通知が到着



鳥取県では、国民健康保険被保険者の方で、多くのおくすりを服用されている方を対象に、「服薬情報のお知らせ」を送付しています。

通知がお手元に届いた際は、中身を必ずご確認ください。当通知をご持参の上、かかりつけ薬局・薬剤師、かかりつけ医にご相談ください。

2 中身を確認



3 通知をもって、かかりつけ薬局・薬剤師、かかりつけ医に相談



※本通知に関するお問い合わせは、通知書記載のサポートデスクまでおたずねください。

鳥取県からのお知らせ

国民健康保険加入者で多くのくすりを服用されている方へ

高齢になると、くすりの数が増えて副作用が起こりやすくなります。



東京大学大学院老年病学教授 秋下 雅弘 (鳥取県医療人材顧問)

高齢者の患者学

人生100年時代と言われるほどの長寿時代になりました。そうなるにただ長生きするだけでなく、健康を維持していつまでも元気に暮らしたいと誰もが思うものです。しかし、中高年期からの生活習慣病に高齢期特有の症状が重なり、加齢に伴う多病状態とそれゆえの多剤服用状態が形成されていきます。多病・多剤状態になると疾患同士、治療薬同士が影響し合います。また、疾患別の専門医療にも落とし穴があり、それぞれ症状に対して2、3種類の薬であっても、いくつもの医療機関や診療科にかかることを服用する薬は容易に10種類を超えてしまいます。これを指示とおり服用し続ける自信がありません。医療を受けている高齢者の方は、医療そのものと同き合わないで健康長寿を達成することなど期待できません。本当に必要で基本的な知識を身に付けることが大切です。同じ病気や症状でも、他にも病気がない若い人と違い、高齢者の方は

配慮が必要で、根本的な治療は実際にはとても難しいです。それよりも、病気と上手に付き合っていくことを考えることが大切です。さまざまな病状で何が一番大事か優先順位をつけましょう。一つ一つの病気を見る「木の医療」ではなく、「森の医療」をする必要があります。くすりの副作用を新たな疾患と勘違いして、さらにくすりを手当てする悪循環に陥るかもしれません。高齢者の方がそれぞれの疾患や症状とう向き合うべきか、どう付き合えばよいか、患者とどう連携するべきかを理解していただくために、総合的に相談できるかかりつけ薬局・薬剤師や、かかりつけ医を持つてください。

今回、県から「服薬情報のお知らせ」がお手元に届いた方は、まずはかかりつけ薬局・薬剤師や、かかりつけ医の方に相談していただく。

もっと詳しいことが知りたい方は、一般社団法人日本老年医学会のホームページに掲載のパンフレットをご覧ください。

多すぎる薬と副作用

検索



あなたのくすり

いくつ飲んでる？

